

「10年後のありたい姿」は

すべての子どもたちがワクワクする学びを自ら発見できるとともに、周りにも共感でき、「塩尻で育ってよかった」と思う体験ができること

です

この「ありたい姿」の実現には、

ワクワクする学びの場や機会・時間をみんなで作る

多様性を包み込む環境をつくる

ワクワク(主体性)と協働で(深く)学ぶ

- ・基礎学力が育まれている
- ・自ら考える力、対話力等「ワクワク」の土台が強化
- ・デジタルが活用されている
- ・友達・親子で学び合う
- ・地域や企業との連携、学ぶと働くの境目がない生き方(キャリア)教育

学校を取り巻く資源を再整理・活用する

- ・学校・地域の教育資源(ヒト・モノ・コト)を効果的に活用する実践が進んでいる
- ・本気の大人から学ぶ機会が増えている(各種行事)
- ・特性に応じた個別最適な環境がある

児童・生徒に向き合う場・時間が増える

- ・保護者が自身の子育て・教育を考える場がある
- ・学校の働き方改革、ライフワークバランスが進んでいる

学びの場・居場所が充実している

- ・好きを伸ばす・多様な学びの場・居場所がある(児童クラブ・放課後キッズクラブ、部活、習い事、遊び場、図書館等)

困難や悩みを支える環境がある

- ・様々な個性や家庭環境に関する理解が広がっている
- ・フォーマル・インフォーマルな支援が充実している
- ・困難を抱えていても、自己肯定感の高い児童・生徒が増えている

の実現が必要です

【ワークショップの概要】

・近年、「チャレンジしやすいまち」として塩尻を評価する大人が増えている。大人が感じている塩尻の魅力を児童・生徒にも体感してもらいながら(塩尻の強みを活かしながら)、ワクワクしながら学べる環境を充実していくことが、重要なのではないか。また、深い学びの体験を重ねることで、愛郷心が育くまれることも期待できる。

・学校には、地域の教育資源を活用しながら、塩尻版の主体的かつ対話的な深い学びを開発して行ってほしい。その際、学校はもっと地域や企業と連携してもよいと感じる。また、学校の外の学びの場や居場所も重要である。

・大人が児童・生徒に本気で向き合うことで、良い教育効果が期待できる。児童・生徒に関わる場・時間のある地域社会をみんなで作っていく必要がある。

・様々な事情を持つ家庭が増えている。それぞれの幸せの形を理解し、支えることで、困難があっても、ワクワクする未来を発見し、学んでいけるまちの実現に挑戦していくことが求められる。

# 分野② 学校教育・家庭支援

私たちの目的は、  
すべての子どもたちが、望む未来を自分自身で作りに上げていくことができることだからです

「10年後のありたい姿」は

(仮)

です

姿」の実現には、

